

シトリックスと Microsoft 365: Citrix Workspace で Microsoft Office 365 への 投資を最大化

移行の迅速化、
メンテナンスの簡素化、
ユーザーの生産性と
セキュリティの向上



目次

Citrix Workspace が Office 365 に付加価値を与える 3 つの方法.....	3
1. IT 効率の向上と複雑さの軽減.....	3
2. 状況に応じたユーザー中心のセキュリティによるリスクの削減.....	5
3. ユーザーの生産性の向上.....	6
シトリックスの多彩な技術.....	8
結論.....	9

Microsoft Office 365 はあらゆる規模の組織に多くのメリットをもたらします。IT 部門にとって、クラウドベースのソリューションには、柔軟性の向上、資本コストの削減、管理の簡素化といったメリットがあります。複数のプラットフォーム間での強力なコラボレーション機能やドキュメントの同期機能によって、ユーザーはいつでもどこでも、仕事に欠かせない Office アプリケーションにアクセスできます。Citrix Workspace は、Office 365 の導入とその管理に伴う課題を解決することで Office 365 を補完し、クラウドベースの Microsoft の生産性向上スイートに移行する価値を最大限に高めます。

Office 365 クラウドサービスを採用する際には、多くの課題がでてきます。

- データセキュリティを確保しながら、認証とアクセスをどのように処理したらよいか？
- 支社がクラウドと切断されたときにはどうなるのか？
- Skype for Business などの要件の厳しいアプリケーションで、モバイルかデスクトップかを問わずあらゆるデバイスで一様に高品質のエクスペリエンスが得られるのだろうか？
- このソリューションの頻繁なアップデートを処理するシンプルな方法はあるのだろうか？

Office 365 から得られるメリットをすべて手にするには、こうした課題にシンプルかつ包括的な方法で対処する必要があります。シトリックスと Microsoft の製品を併用することによって、あらゆるデバイス、プラットフォーム、ユースケースにわたり Office 365 の優れたユーザーエクスペリエンスを実現し、セキュリティと管理容易性を向上させることができます。

Citrix Workspace が Office 365 に付加価値を与える 3 つの方法

Office 365 への移行は、企業のデジタル変革戦略の最初の手順の 1 つとして広く行われています。Citrix Workspace は、クラウド、モビリティ、アプリケーション配信の要件を満たす統合化されたアプローチにより、またよりスムーズな移行を実現するための一般的な課題を解消することによって、この取り組みを簡素化します。

1. IT 効率の向上と複雑さの軽減

ユーザーの承認とアクセス

Web アプリケーションは、ユーザーのワークフローとコラボレーションのさまざまな側面を単純化してくれますが、アプリケーション毎にログオンが必要になるため、生産性向上を阻害する新たな障壁となります。クラウドベースの Office 365 に移行する際に第一に考慮すべきことの 1 つに、シングルサインオン (SSO) を通してこの摩擦をどのように排除するかという点が挙げられます。Citrix Workspace アプリは、Web バージョンの Office 365 などの Web ベースのアプリケーションを起動するためのブラウザインター

フェイスを内蔵しており、あらゆる種類のアプリケーションに対して、同じインターフェイスで即座にアクセスできます。一方バックエンドでは、SaaSやWebアプリケーションのアクセスと制御を一元化し、データを保護することができます。Citrix Access Control は、切り取り、複製、貼り付け、印刷制限、スクリーンショット防止用のウォーターマークなどのセキュリティ設定を使用してコンテキストポリシーの施策を補完します。

Office 365 アプリケーションの仮想デリバリーでは、Citrix Workspace の安全なリモートアクセス機能によって、企業のユーザーはもちろんサードパーティのユーザーにも、ユーザーディレクトリをクラウドに移行したり、追加のコンポーネントを DMZ にインストールすることなく、シングルサインオンを許可することができます。統合化された Citrix ソリューションは、ADFS や SAML のプロキシとして、またアプリケーションデリバリーコントローラーとして機能し、あらゆる種類のアプリケーション（Web、SaaS、モバイル、および仮想）、あらゆるユーザー（従業員、派遣社員、パートナー、さらには顧客）に対するアクセス許可の維持管理を一箇所で行えるようにします。Citrix Workspace は、RADIUS、Kerberos、Microsoft の NTLM および Certificate Services など、複数の認証プロトコルと共に、あらゆる認証メカニズムをサポートしています。

ハイブリッド環境

Office 365 クラウドサービスがすべての要件を満たすことができるわけではありません。たとえば、ある企業では、Exchange、Lync、SharePoint の各サーバーはクラウドで実行するけれど、Word と Excel はローカルにインストールしたいと考えています。また、ネイティブ、モバイル、Web、および仮想の各バージョンのアプリケーションを提供する個別の Office 環境を用意したいと考えている企業もあります。ソフトウェアのアップデートやユーザーのアクセス許可の変更を行うとなれば、こうしたハイブリッド環境では、各環境をサポートするために使用される管理ツールが異なるため、コストと複雑さが高まります。また、デバイスによってエクスペリエンスが一貫性していないため、ユーザーにとっても問題です。

Citrix Workspace は、ハイブリッドなアーキテクチャを志向して設計されており、オンプレミス、クラウド、Web、SaaS、モバイルのアプリケーションの管理を1つの同じやり方で管理できるようにしています。IT 部門は統一された管理プレーンを用いて、Office 365 のすべての要素はもちろん、仮想アプリケーションやデスクトップなどのワークスペース要素も1箇所から管理し、セキュリティを確保することができます。これにより、全体の可視性が大幅に向上し、トラブルシューティングが簡素化されるため、IT 部門は従来よりも多くのことを、より簡単に行えるようになります。

アプリケーションのライフサイクル管理

Office 365 の Web バージョンはほとんどのユーザーにとって優れた選択肢ですが、一部の機能がネイティブバージョンにしか存在しないこともあります。このような場合、Web バージョンへの移行に際して、古いバージョンの Office への依存関係に起因する競合の有無を検出し解決する必要があります。また、年 2 回以上のメジャーアップデートがありますが、Microsoft では最新の 2 つのリリースしかサポート対象としていないため、サポート対象外になる前に移行作業を短期間で済ませる必要があります。

Citrix Workspace は、問題が発生すると自動的にそれらにフラグを付け、修正することで、アプリケーションの互換性チェックに要する時間、労力、コスト、リスクを大幅に削減します。Citrix Workspace のアプリケーション仮

想化技術により、アップデートとパッチの管理は、一元的に保存されているベースイメージに基づいて 1 回だけ実行されます。Citrix Workspace のモバイルサービスでは、Office 365 アプリケーションをモバイルデバイスに配信する際にも同様に、作業を簡素化し効率化することができます。ユーザーは常に最新のソフトウェアバージョンを受け取るため、世界中の多数のエンドポイントで古くなったアプリケーションがローカルに実行されるリスクは発生しません。

2. 状況に応じたユーザー中心のセキュリティによるリスクの削減

モバイルとエンドポイントのセキュリティ

Office 365 では、ユーザーは生産性を高めるために BYO（個人所有の）デバイスを含む任意のデバイスを柔軟に使用できます。リスクを高めることなくこの自由を実現するため、IT 部門は、モバイル、デスクトップ、管理対象であるか、管理対象外であるかに関わらず、組織内に持ち込まれるすべてのデバイスで Office 365 のデータを保護する対策を講じる必要があります。

ユーザーが使用している Office 365 のバージョンがネイティブ、モバイル、仮想、または Web ベースのいずれであっても、Citrix Workspace App Store 経由で配布することで、デバイスの状態やコンプライアンスに基づいて使用権を発行あるいは取り消すことができます。

エンドポイントに対する自動コンプライアンスチェック機能には、IP ベースのフィルタリングなどの単純なチェック機能から、デバイスで最新のウイルス対策プログラムが実行されているか、適切な証明書がインストールされているかなどが確認・認証された安全な WLAN に接続されてはじめてアクセスが許可されるなど、より高度な管理者定義チェックまで設定することができます。最高水準の保護を実現するため、デバイスを認証の前後の 2 度チェックし、コンプライアンスを確保します。

モバイルアプリケーション管理 (MAM)

モバイルアプリケーション管理 (MAM) の柔軟なオプションにより、自社のセキュリティとプライバシーの要件に適した戦略を選択できます。MAM のポリシーとコントロールは、モバイルデバイス管理 (MDM) と組み合わせるほか、デバイスの登録と管理を必要としない MAM 単独方式でも実装できます (BYOD が採用されている環境では特に有用な機能)。これにより、IT 部門は、デバイスレベルではなくアプリケーションレベルで MDM と同様のポリシーを適用することが可能になります。たとえば、管理者は、デバイス全体の操作に限定されるのではなく、必要に応じて個々の管理対象アプリケーションをロック、ワイプ、または選択的にワイプすることができます。デバイスデータは、すべてのモバイルプラットフォームにわたり内蔵の AES 256 ビット暗号化機能で保護されます。

Citrix Workspace は、マイクロ VPN を使用してアプリケーションからデータリソースへの安全なパスを構築します。各アプリケーションは独自のマイクロ VPN トンネルを確立し、データを保護するだけでなく、デバイス上の他のすべてのアプリケーションから企業ネットワークを保護します。アプリケーションが終了すると、その VPN も削除されます。IT 部門では、認証と承認のレベルに合わせてそれぞれ異なるゲートウェイを使用するようにアプリケーションを設定することもできます。データの最適化と圧縮の手法により、可能な限り迅速に最小限のデータのみが伝送されるため、データのセキュリティとユーザーエクスペリエンスの双方が向上します。

セキュリティ管理をさらに強化するため、Citrix Workspace を既存の Microsoft Intune および EMS 管理サービスと統合することも可能です。たとえば、ユーザーの場所に基づいて特定のモバイルアプリケーションの使用を制限するといったことが可能です。管理者は、シトリックスのセキュリティポリシーと Intune のポリシーの両方を単一のコンソールから適用できます。

アプリケーションとデータのセキュリティ

さまざまなデバイスで Office 365 クラウドアプリケーションを使用できるのは便利ですが、誤って企業データを危険にさらす結果をもたらす可能性があります。Citrix Workspace は、ユーザーのワークスタイルと組織のセキュリティ要件に合わせて、さまざまな方法でデータを保護します。

Citrix Workspace では、従業員、顧客、パートナー間で共有されている業務用ファイルを完全に可視化し、制御することができます。データがセキュリティ境界から外部にでないようにするには、直観的な方法で扱えるコンテナを使用してデータを自社のデータセンター内に保持しながら、ユーザーが任意のデバイスや場所から編集して共有できるようにします。ユーザーが自分のモバイルデバイス上でローカルにデータにアクセスする必要がある場合、Citrix Workspace は、そのデバイス上の安全なコンテナ内で保存データを暗号化できます。革新的なマイクロ VPN やアプリケーション単位の VPN 機能を使用すれば、クラウドとユーザーデバイス間で転送中のデータが保護されます。その他の高度なデータセキュリティ機能として、デバイスのロックとセキュリティ、アクセス制御、安全なコラボレーション、リモートワイプ、およびデータ期限切れポリシーなどが挙げられます。

企業のディレクトリサービスとのシームレスな統合により、認証、ユーザープロビジョニング、および承認という一連のプロセスが簡素化されます。また、Microsoft OneDrive との統合により、Office 365 アプリケーションのエンタープライズレベルの IT 監視が可能となっており、しかもこれらはすべて一元化された、コンシューマー向けのユーザーインターフェイスで実現されています。完全なレポート生成機能と監査機能も用意されているため、ユーザーの活動をリアルタイムで追跡してログに記録し、コンプライアンスの維持に役立つカスタムレポートを作成できます。

アプリケーションベースの脅威から組織を保護するにはパスワードだけでは不足です。とりわけ、今日のユーザーはあらゆる場所、あらゆるデバイス、それも信頼性も安全性も確保されていないデバイスを使って業務を行えるようになっている状況ではなおさらです。Citrix Workspace には状況に応じたセキュリティ機能があり、Office 365 アプリケーションのセキュリティを現時点でのデバイス、ユーザー、場所、およびネットワークに基づいて確保することができます。また、Office 365 アプリケーションで多要素認証機能を使用したり、脅威分析に基づいて追加の認証要素を求めるようにすることも可能です。アプリケーションが不審な振る舞いを示すと、ハイパーバイザー、ネットワーク、エンドポイント、サーバーを含む組織の環境全体にわたるデータの分析を通じて問題を特定して対処することが可能です。

3. ユーザーの生産性の向上

ユーザーエクスペリエンスと生産性

ユーザーは、任意の場所、任意のデバイスでデータにアクセスし共有できることを含め、シンプルで一貫したエクスペリエンスを期待しています。Citrix Workspace は Office 365、Web、SaaS、仮想、モバイルなどのあらゆる種類のアプリケーションにアクセスできる単一のコンシューマー向けフロ

ントエンドです。デスクトップ、タブレット、スマートフォン、その他の「モノ」を含めあらゆるデバイスにも、やはり同じシンプルで一貫したエクスペリエンスが当てはまります。

Citrix Workspace では、ユーザーのファイルとドキュメントはすべて、どのデバイスでも簡単に利用でき、すべてのデータソースにわたり 1 つのビューで表示されます。これは、仮想化環境内であっても変わりません。実際、多くのお客様が、Office 365 が Citrix Workspace と統合されていることを知った直後から、Office 365 サブスクリプションに含まれる OneDrive for Business のストレージの特典を利用し始めたのです。柔軟性と選択肢をさらに高めるため、Citrix Workspace のエンタープライズファイル同期・共有技術が、Office 365 の新しいチャットベースのワークスペース Office 365 Teams と統合されました。その結果、Teams に含まれる OneDrive と SharePoint のストレージに加えて（すべてのチャネルが SharePoint フォルダを提供）、ユーザーは Citrix Workspace でファイルを共有し、共同作業を行えるようになりました。

モバイルユーザーとデスクトップユーザーは、大容量のファイルでも FTP や VPN を必要とせずに簡単に共同作業を行うことができます。高度なデジタル著作権管理、電子署名、リアルタイムワークフローにより、ユーザーは、コストの高い代替手段を使わずに、1 つの URL だけを使用してわずかな時間で生産性を向上させることができます。

ホスト型電子メール

Microsoft は、Office 365 の一部として Exchange Online ホスト型電子メール提供していますが、一部の企業はオンプレミスバージョンの Exchange の方がニーズに合致しているとみています。こうしたハイブリッドなシナリオでは、iOS と Android 向けのアプリケーションバージョンである Outlook Mobile はデータ同期アプリケーション ActiveSync を使用できず、Microsoft Intune と Microsoft Enterprise Mobility Suite (EMS) を使用して管理することができません。このような場合、Citrix Secure Mail を導入することで、ユーザーに電子メール、連絡先、カレンダー機能のためのリッチでカスタマイズ可能なエクスペリエンスを提供する一方、IT 部門がセキュリティの管理を詳細に行えるようにすることができます。

Citrix Workspace の環境内では、Microsoft Outlook プラグインを使用することで、ユーザーはファイルにリンクを挿入し、新しいファイルのアップロードと送信を行い、Microsoft Outlook の電子メールメッセージからの直接ファイルを要求することができます。IT 部門は、すべての添付ファイルまたは一定のサイズを超える添付ファイルを Citrix Workspace のリンクに変換することで、電子メールのバウンスバックやファイルサイズの制限を回避することができます。暗号化されたファイルは、セキュアな TLS 接続を介して転送され、AES 256 ビット暗号化方式使って保存されます。

ユニファイドコミュニケーション

Skype for Business は、Office 365 にクラウドサービスとして含まれています。Citrix Workspace は、Windows、MacOS、Linux 上で Skype for Business によるリアルタイムのオーディオビデオエクスペリエンスを提供します。シトリックスと Microsoft が共同開発した Skype 最適化パックは、仮想環境での優れたエクスペリエンスを提供するとともに、Skype のほとんどのネイティブ機能に加え、Skype 専用のアクセサリもサポートしています。Skype は各エンドポイントにはインストールされず、中央から一元的に提供されるため、通信記録がエンドポイントに残らず、またユーザーは常に最新

バージョンを使用しているため、ビジネスコミュニケーションのセキュリティが向上します。さらにまた、モバイルユーザーは Workspace セキュア カレンダーからワンクリックで Skype for Business を起動することができます。

ネットワークの信頼性とパフォーマンス

ビジネスに不可欠な Office 365 アプリケーションはオンラインで提供される性質上、特にリモートオフィスや支店などでの運用では、ネットワークの信頼性とパフォーマンスを確保することが欠かせません。これは、同じ地域内であっても、インターネット上の待ち時間が日によって、あるいは地域間で変動する可能性があることから、非常に困難な課題と言えます。

Citrix Workspace では、SDWAN を使用してネットワークの復元性と常時接続性を保証しています。このソリューションでは、複数のインターネットリンクを集約し、遅延時間、ジッタ、損失が測定され、その結果に基づいてネットワークアンダーレイのマップが生成されます。そしてこのマップを使用することで、アプリケーション毎に最適な経路が割り出されます。このため、リアルタイムの通話品質が求められる Skype for Business など課題の多いアプリケーションに関しても高品位なユーザーエクスペリエンスが実現されます。

シトリックスの多彩な技術

Citrix Workspace には業界をリードするシトリックスのさまざまな技術が組み込まれています。こうした技術は、Fortune100 企業の 99%、Fortune 500 企業の 98%をはじめとする世界中の 400,000 超の企業組織において価値を創造し続けています。

Citrix Virtual Apps and Desktops は、あらゆる場所のあらゆるデバイスを通じて、Windows アプリケーションとデスクトップ、さらには Linux、Web、SaaS の各アプリケーションへの安全なリモートアクセスを可能にします。

Citrix Endpoint Management は、統合エンドポイント管理 (UEM)、モバイルデバイス管理 (MDM)、モバイルアプリケーション管理 (MAM)、モバイルコンテンツ管理 (MCM)、セキュアなネットワークゲートウェイ、エンタープライズグレードのモバイル生産性向上アプリケーションを1つの包括的なソリューションの形で提供するソリューションです。

Citrix Content Collaboration は、総合的な IT 管理を維持しながら、組織と従業員のすべてのモバイルデバイスに対してエンタープライズクラスのデータサービスを提供します。ユーザーはどのデバイスからでもファイルにアクセスし、同期し、安全に共有できます。オフラインでのアクセスが可能のため、ユーザーが外出先であっても生産性は低下しません。

Citrix SD-WAN は、リアルタイムのパス選択、エッジルーティング、ステートフルファイアウォール、エンドツーエンドの QoS、および WAN 最適化といった機能を備えています。

Citrix Access Control は、SaaS や Web アプリケーションの精細なセキュリティ制御に加えて、あらゆるアプリケーションを場所に関わらず多要素認証によるシングルサインオンで利用できるようにします。

結論

Citrix Workspace は、移行プロセスと継続中のアプリケーションライフサイクル管理を簡素化することで、組織が Office 365 への移行の価値を最大限に活用できるようにします。また、クラウドベースの配信に関連するセキュリティ上の重要な課題を解決し、管理業務を合理化し、ユーザーにとってシンプルで生産性の高いエクスペリエンスを実現します。さらに、IT 部門の効率向上によってコスト管理が改善されます。Microsoft Office 365 は、あらゆる組織のデジタル変革計画において重要な役割を果たす存在であり、シトリックスはその投資を最大化することに寄与します。

Citrix Workspace によって Office 365 の導入がどのように促進されるについては、now.citrix.co.jp/o365 をご覧ください。



©2018 Citrix Systems, Inc. All rights reserved. Citrix、Citrix ロゴおよびその他のマークは、Citrix Systems, Inc. および／またはその 1 つもしくは複数の子会社の商標であり、米国の特許商標庁および他の国において登録されている場合があります。その他の社名、商品名はそれぞれの所有者の登録商標または商標です。